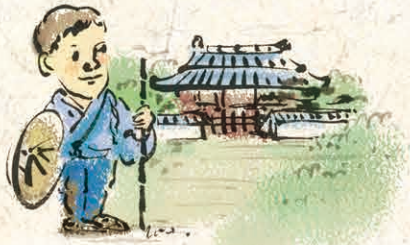
坂の上の雲マップ

松山散策番外編へ出かけよう！



物語の世界をもっと深めるために、少し足をのばして
ゆかりの地や関連施設を訪ねてみよう。

小説に登場する人物たちのゆかりの地や関連施設を訪ねて

20 河東静渓住居跡（碧梧桐生誕地）

静渓は俳人・碧梧桐の父であり、私塾で子規などの若者たちを教育した。碧梧桐は虚子と並ぶ子規門を代表する俳人で、小説『坂の上の雲』には子規との交流がいきいきと描かれている。

21 大原観山住居跡

子規の外祖父・大原観山は、藩校明教館の教授をつとめ、廃藩後は私塾を開いて子弟の教育に余生を捧げた。長女は子規の母・八重、三男は松山市長をつとめた加藤拓川（恒忠）である。

22 第五十二国立銀行跡

明治11（1878）年に国立銀行として誕生した銀行。子規の叔父である大原恒徳が支配人をつとめた。

23 きどや旅館跡

漱石が明治28（1895）年に中学教師として松山に赴任した際に宿泊した旅館。小説『坊っちゃん』で主人公が最初に泊まった「山城屋」のモデルとなった。

俳誌「ホトトギス」育ての親 高浜虚子の住居跡

26 高浜虚子住居跡

子規の後輩であった虚子が、明治14（1881）年から京都の第三高等学校入学まで暮らした。明治24（1891）年には帰省中の子規が虚子宅を訪ね、句会を開いている。

愚陀佛庵跡から21 22まで徒歩5分

21 22から20まで徒歩３分

市内電車「勝山町」から26まで徒歩５分

少し足をのばして ゆかりの地を訪ねる

27 明教館

松山藩第11代藩主松平定通が藩士の文武稽古所として建てた。当時は県庁の向かいにあったが、現在は松山東高等学校の敷地の一画に移築・復元されている。明教館の小学部である養成舎では、幼少時代の秋山好古も学問を学んだ。

※松山東高等学校の敷地の一画にあります。見学希望の方は、事前に学校にお電話下さい。☎089-943-0187

28 お囲い池跡（松山市青少年センター）

石手川の伏流水を利用した灌漑池で、藩政時代には大洲の神伝流泳法を学ぶ水練場だった。明治30（1897）年以降は松山高等小学校の水泳場として使用された。現在は埋め立てられ、青少年センターとなっている。小説では秋山真之が泳ぎに行く場面で登場する。

かつて練兵場として使われた文京町の『坂の上の雲』関連地を訪ねる

30 城北練兵場跡

バラック内におけるロシア兵捕虜

明治22（1889）年に連隊の演習用地として設けられ、その範囲は現在の愛媛大学文京キャンパスや松山大学文京キャンパスの一部にまでおよんだ。日露戦争中には城北バラックといわれるロシア兵捕虜収容施設が建てられた。小説では、子規が虚子らに野球を手ほどきした場所として描かれている。

31 温山会館（松山大学）

松山大学の前身は、大正12（1923）年に開校した松山高等商業学校である。同校創立者の一人で、創立資金のほぼ全額を提供したといわれる実業家・新田長次郎を記念して学内に建設されたこの会館は、新田の雅号から命名され、松山大学の歴史が実感できる資料が展示されている。

32 旧北予中学校（松山北高校）

北予中学校は明治33（1900）年に開校された。陸軍を退役した秋山好古も校長をつとめた。昭和24（1949）年に県立松山北高等学校となった。

※松山大学敷地内にあります。見学希望の方は、事前に大学（温山会事務室）にお電話下さい。（土日祝祭日を除く、月～金9:00～16:00。ただし大学の一斉休暇・入試期間中は利用できません。なお、学内に駐車場はございません。）
☎089-926-7141

市内電車「勝山町」から27 28までそれぞれ徒歩7分

市内電車「鉄砲町」から31まで徒歩５分

散策番外編